



マイスター・エンジニアリング<4695>、平野大介社長主導によるMBOで非公開化へ



東証2部上場でメカトロ関連の技術者派遣などを手がけるマイスター・エンジニアリングは8日、MBO（経営陣による買収）を受け入れ、株式を非公開化すると発表した。平野大介社長が設立したMEホールディングス（東京都港区）がTOB（株式公開買い付け）を行い、完全子会社化を目指す。短期的な業績にとらわれず、中長期的な視点から柔軟な経営判断や機動的な投資を実現できる体制を築く。

買付価格は1株940円。TOB公表前日の終値803円に17.06%のプレミアムを加えた。平野大介社長の実父で、マイスター株の20.23%を持つ平野茂夫会長はTOBには応じない。この不応募株式を除く全株式をTOBを通じて買い付ける。買付価格は最大59億1803万円。買付予定数の下限は所有割合で46.43%。

買付期間は11月11日～12月20日。決済開始日は12月27日。買付代理人はみずほ証券。

マイスター・エンジニアリングは1974年にビル設備管理業務を目的に「大阪丸誠」として設立し、1991年に現社名となった。半導体・液晶、自動車などメカトロ関連向け技術者派遣を中心に、ホテルやショッピングセンターの常駐施設管理やスタジオ・ホール・会議場の運営管理などに業務を拡大してきた。1997年に大証2部、2002年に東証2部に上場。